

# アメリカにおける コロナ禍の学校

教員組合の対応を中心に

---

山本由美(和光大学)

- Chicago Teachers Union (CTU) のこの間のレポート、  
ニュースレターより
- Labor Notes \* の出版物、論文の分析を中心に
- \* NPO、Rank-and-File Union の全国組織、社会正義ユニオニズムを方針とする。
- **School and Campus Workers Say: Not Until It's Safe**  
September 18, 2020 / [Alexandra Bradbury](#)  
<https://www.labornotes.org/2020/09/school-and-campus-workers-say-not-until-its-safe>
- **Educators Demand Virtual Schools as 'Least Bad' but Safe Option** August 17, 2020 / [Barbara Madeloni](#)
- <https://labornotes.org/2020/08/educators-demand-virtual-schools-least-bad-safe-option>

# 1、全体動向

## 学校再開 (School Reopening) の多様なパターン

- トランプが安全面での十分な条件整備無しで秋の新学期からの学校再開を宣言(7. 8ツイート)
- ➡多くの教員組合、保護者団体、市民らが反対運動を行った結果、都市ごとに様々な学校再開に
- ① 対面学習 (in person class)
- ② ハイブリッド(対面とリモートの混合、様々なパターンあり)
- ③ リモート学習
- 全米で48%が対面学習、52%がハイブリッドもしくはリモート

# 各地(学区)で様々なハイブリッド

- 多くの教師たちは完全なリモート学習を望んでいる。しかし学区によって多様なプランが
- ① 生徒をリモート学習の体制にしておいて、教師だけが校舎の教室からリモート授業を行う。
- ② いくつかのハイブリッドモデルは、生徒ごとにスケジュールを分けて、少人数で教室に入り対面授業を受け、授業がない日はリモート授業を受ける。
- ③ 別のハイブリッドモデルは、教師が同時に教室内授業と、リモートの授業をする。(→教師には悪夢だという)
- ④ いくつかのリモート学習は「Synchronous Learning(シンクロ学習)」と呼ばれ、家にいる生徒たちはあたかも教室にいるかのように、始業の時間から時間割に沿ってリモート授業を受けることを期待される。
- ⑤ 別のタイプは、フレキシブルなスケジュールで、少人数グループとアドバイスミーティング、そして教師によって決定されたスケジュールによるリモートのシンクロ授業を行い、教師は大きな授業の代わりにZoomを使った少人数クラスもしくは、生徒が勝手に見ることのできるオンデマンド授業(録画)を選ぶことができる。
- 教師にとっての問題は、どれだけシンクロ授業を行うか、—それは生徒、家族、そして教師にあまりにも負担が大きい—そして、誰がそれを決めるか。(Labor notes)

マサチューセッツ州アーリントン (階層は中流)  
高校は全リモート、小中はハイブリッドで  
対面orリモート選択、**親が壁画で応援**



# アーリントンの保護者に聞いたら

- 教師たちは安全面から学校再開を望んでいなかった。
- リモートとハイブリッドをやらなければならなくて準備が大変。必要な家には、Google Laptopを学校が貸してくれた。
- ハイブリッド(10~12人クラス)では週に2回学校に行く。残りはホームワーク。いったんハイブリッドを選択したら、2度とリモートには戻れない。逆は可能なのに不思議。両親が働いているか家で仕事をしている場合選ぶ。ホームワークは1度にまとめてやってしまいそう。人間関係、感染が心配。(感染を知っていて登校させた例も)
- Zoom保護者会、教師はよく学習している。最も大事なものはZoomでも、生徒がクラスにチェックインして、自分がいるクラスだという意識を持っていること。
- 公立小学校の無償の朝食サービス(これまで必要な子どもは毎朝カフェテリアで提供されていた)→提供できなくなりランチボックスに入れて配布も。再開後カフェテリアに人数が入りきらない。昼食はランチルームが密になるので、外にテントを張って食べるケースが多い。

## 3.18 Congress passed the Families First Coronavirus Response Act (FFCRA)

- COVID-19危機のため、子どもの学校またはデイケアセンターが閉鎖され、他の親または通常の育児プロバイダーも入手可能ではない場合に、有資格の従業員は、12週間の間、保障された支払いを受けることができる。
- FFCRAの下で育児スタートをしている労働者のための支払いレートは、基本給の3分の2であり、最高額を200ドルとする。
- それによって労働者が職場を離れることは年次の12週、12-week Family and Medical Leave (FMLA)の一部にカウントされる。もし雇用者が離職の権利を破った場合には、Wage and Hour Division of the U.S. Department of Laborに不服申し立てができる。

# 実際ハイブリッド学習が多く予定されたため 8.24に追加措置が公表された

- 学校が不規則なリモート学習を行う場合、例えば週2回や、隔週などで行う場合に、雇用者はFFCRAの休暇を、期間を全て費やすまで断続的に取得することを認められる。
- 反対に、ガイダンスは、学校が、教室に出席しての対面授業か、リモート学習のどちらを選ぶかの選択を保護者に提供して、保護者がリモート学習を選んだ場合 — おそらく、子どもがCOVID-19に触れてそれを家にいる家族にもたらずことを心配して — には、資格を与えられない。
- The FFCRA expires December 31, 2020, unless extended by Congress.



# 大都市部、貧困地域ではハイブリッド、リモートで再開する傾向

---

- 3月にわかったように学校は巨大な感染源になる可能性がある。生徒や教職員が家に持ち帰りコロナウイルスを広めてしまうのだ。もしニューヨーク市の学校が1週間早く閉鎖されていたらコロナウイルスの症例は218400件減少し、死亡者数は18500人減少していたとコロンビア大学の研究が明らかにしている。
- 大規模な空調設備やその他の施設改修が必要 — 連邦議会はそのための予算を提供していないし十分な有給休暇のための予算も提供していない。(Labor Notes)
- ➡最も貧困地域の生徒たちが、今秋、最もリモート学習でスタートする傾向が強い。

## 2 各都市の状況

### (1) ロサンゼルス、オークランド

## すばやく全リモート教育でスタート決定

- これまでに職場に労働組合の力を築いていた労働者は、より有利な立場に立っている。昨年強力なストライキを行ったロサンゼルスとオークランドの教員たちは、リモートでの学校再開をすぐに勝ち取った。
- Labor notes 18.9.2020, Alexandre Bradbury ;  
<https://www.labornotes.org/2020/09/school-and-campus-workers-say-not-until-its-safe>

# オークランドの学校再開タイムライン

## 7.10に組合と合意、8.10リモート授業開始

### COVID-19 / FALL 2020 TIMELINE



**OAKLAND UNIFIED  
SCHOOL DISTRICT**  
Community Schools, Thriving Students

## (2) シカゴ

# 市長がハイブリッドを計画➡リモート学習

- 「10年間で3回の大規模なストライキを行ったシカゴでは、ストライキ投票の噂だけでリモートによる再開を確保できた。しかし、シカゴ教育組合はどのようなリモート授業にするかについて、まだ市長と争っている。」9.17 Labor Notes
- シャットダウン以来、シカゴの教師たちは、家もなく、支えてくれる家族や社会もない生徒たちをずっと追跡して、食料やコミュニティの人々にとって必要なものを提供してきている。
- そしてブラックライブズマター運動を支援するために教師たちは道路をいっぱいにしてきた。これらの努力の1つ1つが、教師とコミュニティに学校再開のための戦いを準備してきた。8.17

# Transformed into a Fighting Union(2012)

## 2016, 2019、過去3回のストライキ

- Organizing model union
  - Contract Action Teams in every school
- CTU took risks
- Led successful CTU strike with over 90% approval



### (3) デトロイト

## 対面授業を含むハイブリット

- 「ニューヨーク市とデトロイト市では、ストライキの脅しはそれほど効果的ではなく、下からの圧力に押されて組合指導部は交渉で強く出たが、簡単に妥協してしまった。」(Rabor notes)
- DPS (デトロイト市教委) 7月に小規模対面授業で学校再開する計画を公表した。消毒、マスク着用、ソーシャル・ディスタンス等を備えたものだった。
- しかし、教師たち、労働組合メンバー、コミュニティ組織のメンバーがこの計画を激しく非難した。教員組合、DFT (Detroit Federation of Teachers)は8月にストライキを行うための投票を行なった。
- ➡しかし結局ストライキはできなかった。

## (4) ニューヨーク

# 対面授業を含むハイブリッド

---

- the United Federation of Teachers (UFT) 執行部はCOVIDに対して何もしない、あるいは弱い立場。組合は学校再開に向けて市側との以下の合意をメールで公表した。
- 勤務日は6時間50分勤務、家で20分勤務、小学校では教師が教える教室で昼食をとる「教育的な昼食時間」も含む。経営側がリモート学習を決定した場合、シンクロ学習で教えることになる。 -組合員の投票や会議も無しに決定。8.17
- Caucusの組合員(約200名)が反発して対立状況に。

# ストライキ計画のせいもあり対面授業の 学校再開が大幅に遅れた、との報道も

---

- 対面授業は2回にわたる開始延期
- 9月29日～ キンダーガーデン～3年生
- 9月30日～ 4年生～
- 10月1日～ 高校その他
- 再開後、約50%の児童・生徒が対面授業に参加せずリモート学習



### 3. シカゴの経緯

シカゴ教員組合は警察とCovid19がない安全

学校再開を要求する CTU.6.19 (6. SNS等で要求集約)

- ①学校から完全に警察を排除する
- ➔ 7月と8月のシカゴ市教委による投票で、警察排斥は否決された。
- ②Guarantee that schools will have what they need to open safely, including adequate cleaning for schools, adequate soap, water, and disinfectant for students and workers, PPE for all: temperature checks, and adequate staffing of health professionals in school buildings; and social distancing strategies that protect students, their families, and workers - 少人数学級を含む。
- ③ 再開校の状態として持続可能なコミュニティ・スクール -Sustainable Community Schools -を予算化する。特に貧困地域で生徒や家族に包括的なサービスを提供する。
- ④ 生徒や家族の住居や経済的な改善に向けての予算化を行う。

# BLM、学校からの警察排斥運動

- BLM運動のもと、市民による広範な学校からの警察排斥運動へ
- 特にコロナで大きな被害を受けたBlack Community
- BLM 教員組合も全面的に支持
- 8.26 シカゴ教育委員会が投票で拒否、55校の学校に常駐している警察を来年も継続する。ギャング生徒など治安の悪い学校の規律、訓練など。(1990年代新自由主義教育改革のもとゼロ・トレランス政策で学校からの排斥・逮捕を容易に行うように)
- ただし警察予算は\$3300万➡\$1210万へ大幅削減
- リモート学習のため市の予算は不足、ミネアポリスでは警官排斥成功

# Sustainable Community School

## 持続可能なコミュニティ・スクールの拡大要求

---

- 2016年ストライキ(1日)時の労働協定で組合が勝ち取った権利。「失敗した学校」⇒ターンアラウンド(教員入れ替え)・民営化の対抗軸となる地域の学校の在り方
- 貧困地域の学校に大きな予算をつけて包括的サービス(福祉、医療などを含む)を行う。
- 地域のパートナー団体(住民組織も含む)をセットで認可する。
- 統廃合反対闘争(ハンガーストライキも行った)で存続が決定したディエット高校、閉校反対保護者が学校を占拠した地域の小学校などの20校認可(2018年)
- 2019年ストライキ(14日間)の交渉の大きな争点の1つ →最終的に開校校数の拡大を勝ち取る。

# 市長は、対面・リモート親が選択する 計画を公表 ➡ CTU 反発、全リモートに

- 2) 市長は、保護者が対面授業もしくはリモート学習を選択するHybrid教育を提案した。親は8月7日までにどちらの計画を選ぶかサインしなければならないとされた。十分な条件整備なしでの学校再開計画に対しCTUは10月24日にストライキを計画した。
- 3) 8.3 CTU・諸団体が自動車で行進する抗議活動を行う。ストライキ投票を行う予定である。➡数時間内に市側は全リモート学習に方針転換
- (4) いつ、どのように対面授業を再開するのかを決定するのは大変難しくなった。郊外の階層の高い地域の保護者たちの中には不満を述べる者もいる。
- ➡ リモート授業は？ It`s crazy. 7:45-3:05 (高校、特別支援担当教師)

## 4. 基本的な課題の顕在化、時に崇高なものが明らかになったコロナ禍 多方、全リモート授業の問題は・・・

- BLM運動、人種差別の問題が大きく顕在化 →学校からの警官排斥要求
- リモート学習、民間のホーム・スクーリングがこれまでも存在、しかしサポートする在宅の家族の存在が必要になる。
- リモート学習は貧困地域において、どのような不十分さがあるのか、
- どのような大きなダメージが子どもたちや家族に。学校の福祉的機能は。
- 教師たちはそれをどのように克服できるのか。逆に民営化は進んでいるのか？
- ニューヨーク州ロチェスター市やマサチューセッツ大学アマーフト校のように、教員大量解雇も起きている。